

# ～お白石持ち行事の移りかわり～

長い間、繰り返されている「お白石持ち行事」の移り変わりを、簡単に紹介します。

## ③白石から「お白石」へ

1615年以後、神領の人々も町や村をあけて白石(砂石混在)を両正宮に運び込むようになりやがて宮川からの白石やお白石を運び入れるようになりました。(五十鈴川では現在のようなお白石は産出されません)現在では、お白石は色やサイズなども細かく決められています。

## ②鎌倉時代は砂石!?

土では、雨によって浸食され柱の根元があやくなる、草木が生い茂るなどの問題があり、鎌倉時代、内宮では五十鈴川の「砂れき」「砂石」を運び入れていました。「砂れき」は砂と小石、「砂石」は小石まじりの砂ですが、いずれも「白石」と呼ばれていたそうです。

## ①昔は「土」だった!?

古代では、「土」を「正殿地に持ち運び置き」、神職たちが「築き平らし」と伝えられています。運び込まれたのは「土」。お白石持ち行事があったかどうかは不明です。(室町時代には、お白石を御垣内に敷き詰められることが行われていたそうです)

お白石「石炭系白石」水晶のように少し透明感のある石屑のもの。



「お木曳ぎ行事」と「お白石持ち行事」は国の「記録作成等の措置を講ずべき無形民俗文化財」、伊勢市の「無形民俗文化財」として指定されています。

## \*神宮参道の玉砂利は...?\*

「玉砂利を踏みしめると神宮にきたんだと清々しい気持ちになる」という方も多いのではないのでしょうか。😊  
 広大な神宮敷地内に敷き詰められた玉砂利は、日々大勢の参拝者によって、徐々に石が割れ、砕かれ、すり減ってしまいます。……では、どうしてなくなるのでしょうか?……  
 実は毎年、新しい玉砂利が献納され内宮参道にまかれています。重さにすると50トン。見当もつかないような壮大な数字ですね。皆さんも参拝に行った際は、ぜひ玉砂利にも注目してみてください。



## ☆こんにちは 高須新聞店で

いつもご愛読ありがとうございます  
 もうすぐ「浜参宮」、そして「お白石持ち行事」が始まります。木遣りや踊りの練習にも熱が入っているのではないのでしょうか。  
 皆様から神宮や式年遷宮についての質問や疑問をたくさんいただいております。ありがとうございます。今後、少しずついせまめ通信でお答えさせていただけたらと思っています。  
 「今さら聞けない神宮のこと」ありましたらぜひ、おたよりくださいませ(\*~\*)

## 高須新聞店のホームページができました

～3月1日から3月15日まで～

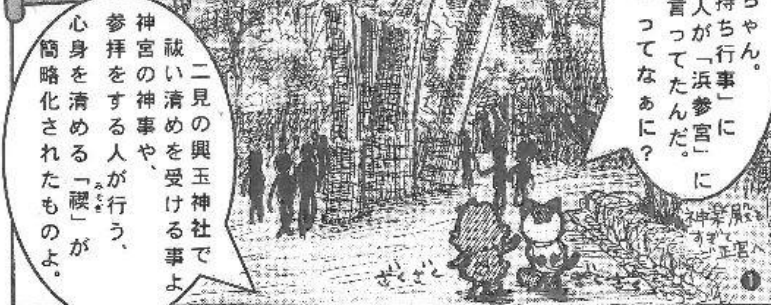


抽選でプレゼントが当たります  
 高須新聞店ホームページのトップページからご応募ください

高須新聞店ホームページ  
<http://cin-takasu.jp/> まで!

※次号は3月24日(日)発行予定。おたのしみに

## たーくんの「いせ豆知識」 第7話 もうすぐお白石持ち



神宮の神事や、二見の興玉神社で誠い清めを受ける事よ参拝をする人が行う。心身を清める「禊」が簡略化されたものよ。

「お白石持ち行事」に参加する人が「浜参宮」に「浜参宮」ってなあに?

そして「御白石持ち行事」は、新しいご正殿の周りに敷き詰めるための「お白石」をお木曳と同様に、各町ごとの奉献団が川曳き・陸曳きで両宮に奉納するのなんだかお木曳を思い出すね

第六十二回式年遷宮は、平成十七年から平成二十五年まで、八年の歳月と三十以上の祭り行事があるけど、そのほとんどが非公開。お木曳やお白石持ちは私たちが参加できる、特別な行事なのよ。



お白石持ち行事には、素敵な立ち入ること、通常は立ち入ることができないご正殿の周りに奉獻されるの、だ・か・ら、神様が引越す前の新しいご正殿を間近で見ることができるとい

光に輝く白木の新しいご正殿ほのかに香るヒノキの香り……二〇年に一度訪れるチャンスなのよ  
 なんだか楽しみになってきたな

# いせまめ通信

高須新聞店通信 お伊勢さんを知ろう企画

発行: 中日新聞  
 伊勢市南郷店  
 高須新聞店①  
 〒516-0014  
 伊勢市南郷町乙422-1  
 ☎ 0596-24-1720  
 fax 0596-24-1728  
 毎月25日頃発行  
 第8号  
 平成25年2月24日